

理科 第3学年 実ができたよ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校3年の理科の授業づくりを手伝う役です。この後の「実ができたよ」の学習指導案を私の学級に合わせて直してください。先に学級の人数と活動の組み方、既習の内容と残っている記録、学習上の困難や必要な配慮、単元に使える時間と研究授業の位置、使える器具・資料・ICTと安全管理について、一つずつ質問し、私の答えを待ってください。答えがそろったら、問い「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」と学習指導要領の範囲、評価の観点を保ちながら、活動と支援を具体的に直してください。教科書の本文・挿絵・固有の問題は転載しないでください。未知の児童の実態や未測定の結果は作らず、数値には出典か私の回答を付けてください。安全に実施できない活動は、同じ問いを考えられる公的資料や記録へ替えてください。先生に渡す文に内部の識別番号やを出さないでください。元と同じ見出しの順で全文を示し、変更理由と根拠にした回答を最後に書いてください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第3学年 理科学習指導案

1 単元名 「実ができたよ」

2 単元目標

植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことを理解し、実物の観察・実験と記録を扱う技能を身に付ける。「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(B(1))

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことを理解している。

〔知識・技能〕②実物の観察・実験と記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。

〔思考・判断・表現〕①観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①実ができたよの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「実ができたよ」は、第3学年のB(1)を手掛かりに、自然の事物・現象を調べる単元である。中心となる理解は、植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つことである。名称を覚えて答えるだけでなく、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、栽培記録を振り返り現在の姿を観察するところから始め、育ち方を写真と絵で順に並べる活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には種子から次の育ちへつながる図を作ること、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

本時では「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」を中心の問いに据える。栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。枯れたので何もなくなったという反応には、実の中を観察して春にまいた種子と比べる。同じ場所でも生長の速さに違いがあるので、日付だけで同じ姿になるとはまとめない

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。正体の分からない実や種子を口に入れない。植物を抜く場合は栽培計画を確認、かぶれやとげのある植物は教師が扱う

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時（本時を含む）：○栽培記録を振り返り現在の姿を観察する。○花があった場所の変化を調べる。○実と種子を観察して春の種子と比べる。○栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。評価：思①（個人の説明・記録）

第2次 第2時：○育ち方を写真と絵で順に並べる。○植物の育ち方の共通点と違いを話す。○種子から次の育ちへつながる図を作る。評価：態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（1/2（配当案））

（1）本時の目標

観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現することができる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：○前時までの記録から「栽培記録を振り返り現在の姿を観察する」ときの疑問を取り出す。

○「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」

【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。

○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。

予想される児童の反応：・植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つのか確かめたい。

・前の記録と比べると違いが見つかりそう。

指導上の留意点：・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。

・正体の分からない実や種子を口に入れない。植物を抜く場合は栽培計画を確認、かぶれやとげのある植物は教師が扱う

【展開】

学習活動：○栽培してきた植物の花・実・種子を観察し、自分たちの記録写真を育った順に並べる。枯れた茎や葉と実の中の種子を一緒に見て、次の成長につながるものがどこに残ったかを図にする。

○「どの観察結果から、そう考えましたか」

○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。

○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確かめ直す。

○比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。

予想される児童の反応：・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。

・この記録だけではまだ決められない。

・育ち方を写真と絵で順に並べることで、理由を確かめたい。

指導上の留意点：・枯れたので何もなくなったという反応には、実の中を観察して春にまいた種子と比べる。

同じ場所でも生長の速さに違いがあるので、日付だけで同じ姿になるとはまとめない

・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。

・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。

評価：思① 観察した共通点や違いを基に、「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」につながる問題を見だし、表現している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

【まとめ】

学習活動：○本時の問いへの答えを、根拠となる観察結果とともに書く。

【まとめ】植物は発芽し成長して開花・結実し、種子を残す順序で育つ。

○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。

予想される児童の反応：・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。

・まだ確かめていない条件が残った。

指導上の留意点：・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。

・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。

・本時の重点は「比べた結果から新たな問題を見だし、何を調べたいかとその理由を表す。」であり、知識の結論だけで思考の評価を決めない。

評価：知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「実ができたよ」と本時の問い「花がさいたあとの植物は、どのように変わっていくだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。育ち方を写真と絵で順に並べる際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重